

ベルマーク便りコンクール2021 入賞校を訪ねて

ベルマークのことを保護者や子どもたち、地域などに伝える「ベルマーク便りコンクール」は、2021年度で36回目を数えます。今回の応募は111通。お便りからは、コロナ禍の中でも工夫して活動している学校の様子がうかがえ、財団にとっても貴重な資料になりました。

審査の結果、10校に優秀賞、7校に佳作、5校に特別賞を授与しました。その中から、学校を訪問して取材することが出来た4校の活動を、まとめてご紹介します。

コンクールは2022年度も開催します。応募すると入選を逃しても図書カードがもらえます。締め切りは9月末です。

校内7カ所にポケットとカップを設置

佳作・滋賀県草津市立笠縫小

草津市立笠縫小学校(成田陽子校長、児童694人)は、創立145年の伝統校です。「校区には新興住宅もあれば2～4世帯同居という家もあり、保護者も複雑な事情を抱えています。コロナのこともあり、集まらず、空き時間に参加できる活動を考えました」と2021年度PTA研修部長の田中明子さん。研修部のメインの活動としてベルマークを取り上げることにし、方法も一新しました。

まず会社別にマークを入れる「ベルマークポケット」を作り、職員室前に貼り出しました。さらに「今の小学生は案外忙しい。空き時間にすぐベルマークを入れられるように」と、やはり会社別に集める「ベルカップ」を各学年の教室近くに設置。これで校内には計7カ所も収集拠点ができました。収集日は設けず、子どもたちがいつベルマークを持ってきても大丈夫です。「楽しそうに、自分たちで仕分けしながら入れている姿をよく見か

けます」と成田校長。

それを研修部員が月に1度回収し、自宅で集計します。でも本当は、集計も子どもたちのボランティアにしよう、というのが当初の計画でした。コロナ感染防止の観点から、残念ながら実施は延期になっています。早くコロナが収まり、構想が実現するといいですね。

田中さんが作成したお便りには、収集方法の説明のほか、財団HPにある被災校のお礼状を引用し「これらはベルマーク集めを頑張っている笠縫小学校の子ども達にも向けられている」とも書かれていました。

今後について田中さんは「子どもたちに活動のことをもっと知ってもらいたい。先生方の協力も得て、ベルマーク運動の楽しさ、有意義さを子供向けに発信していきたい」。成田校長も「ボランティアって楽しい、と子どもたちが感じてくれたら」と話しました。



④左から成田陽子校長、巻幡千絵PTA会長、研修部の田中明子部長、奥村裕子さん、池内愛香さん、PTA担当の中波慎先生

⑤職員室前にあるベルマークポケット ⑥運動の仕組みも説明

ハロウィンのイベントで楽しく

優秀賞・東京都世田谷区立多聞小

東京都世田谷区立多聞小学校(小泉一弘校長、児童673人)は、ユニークなイベントを企画しながら、新しいスタイルのベルマーク活動を模索しています。取材では「楽しい」という言葉がたくさん聞かれました。

PTAの中井さんによると、コロナ禍でも楽しい学校生活を作ろうと様々な取り組みを計画していく中で、「実はベルマーク活動にはもっと色々な可能性があるのでは?」と気づいたそうです。

集めたベルマークをWFP(国連世界食糧計画)を通して学校給食として寄付ができることを知りました。「日本ではわずか15点で買えるものではなくても、それがシエラレオネでは誰かの命をつなぐ1食になる」。さらに、それを子どもたちに「たのしい!プラス、役に立ててうれしい!のダブル」で伝えるため、ハロウィンのコスチュームを着て写真を撮るイベントを企画しました。そ

れが「ハロウィン・ベルマーク」です。

集計方法も根底から見直しました。心掛けたのは「都市伝説に惑わされるな!」だそう。具体的には①きれいに切らなくてもいい②テープで貼らなくてもいい③初めからポケットで仕分けして集める④1点でもいい……。これを動画にしてホームページで紹介してから、劇的にベルマークは気軽な雰囲気になったそうです。

こうした新しい活動を後押ししているのが、「うちのイケてる校長です!」と中井さんが紹介する小泉校長でした。「我々はとかく『ねばならぬ!』に縛られやすいものですが、それよりも『まずは1回やってみよう!』の姿勢で、何事もやっているんです」と話します。

先生と保護者との信頼関係や、発想の転換、そして「ハッピーの積み上げ」と中井さんが語る多聞小のみなさんの明るさが、成功の秘訣だと思いました。



④ハロウィン・ベルマークへの感謝を伝えるポスター ⑤PTA室に飾られている今年のイベントの写真

⑥右から、PTA会長の中井直子さん、小泉一弘校長、副会長の相川智香さんと坂本ルミさん

ジャングルジム、思わぬ形で実現

優秀賞・大阪府枚方市立五常小

大阪府の枚方市立五常小学校(榊正文校長、児童490人)は2021年度、「ジャングルジム大作戦」を展開しました。ベルマークでの購入をめざし、PTA文化交流委員を増員。個人の児童回収袋を復活させて回収率をあげ、期限内に提出したクラスには手製の感謝状を渡しました。お便りでは、回収状況や点数など、ベルマークに関する細かい情報なども周知しました。

校内の回収箱もリニューアルし、さらに公共施設など外部に置いてもらう回収箱も増やしました。地域の掲示板にもポスターを貼り広く協力を求めました。その結果、なんと1学期分だけで、五常小の歴代ナンバー1の点数を集めることに成功したのです。

ところが……。ジャングルジムが目標と知った市民が「公費で設置してあげては?」と市に対して声を上げてくれたことがきっかけで、なんと、企業からの寄贈で設

置できることが決まりました。

お便り担当の高橋さんは「大変ありがたいこと。子どもたちも喜んでくれるようです」と話します。新しい目標としては、図書館の書架や、全クラスに配布できるような大縄、バトンなどを検討中とのことでした。

今年度は集計方法も変更しました。台紙の利用をやめ、単に10枚ずつ両面テープでまとめる形に。作業を効率よく進めようと工夫を重ねた結果です。

実業家出身で、2021年4月に公募で選ばれて赴任した榊校長は「ジャングルジムの設置はベルマークではない形にはなったが、地域の皆さんに熱心さを知ってもらった委員さんの取り組みの成果」と話します。

同校では中庭で地域の人がホテルを育てており、夏には鑑賞会も開いているそう。学校でホテルが見られるなんて幸せですね。



④前列左から三市さん、高橋さん、田中さん、榊校長、柳澤さん、松井さん。後列左から、小林さん、武下さん、野中さん、中村さん、小河さん、高橋さん、江上さん ⑤廊下に置かれた回収箱 ⑥手作りの回収箱